順天堂大学　男女共同参画推進室・女性研究者支援室

NEWS LETTER

Vol.54

2020年3月号

男女共同参画推進室　女性研究者支援部門委員　兼　研究支援コーディネーター

薬理学講座・国広先任准教授がご退任（定年退職）されます

2011年の男女共同参画推進室の開設当初より「女性研究者支援部門委員」及び「研究支援コーディネーター」としてご尽力いただきました、薬理学講座・国広なごみ先任准教授が今年度末で定年退職をされることとなりました。国広先生には、「ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度」での面談をはじめ、研究支援制度「長時間支援枠」の更新審査など、特に研究面において、多くのご指導・ご助言をいただきました。

国広先生の定年退職に伴う当室委員のご退任に際し、本ニュースレターにご寄稿をいただきました。

楽しい研究のすすめ　　国広　なごみ

薬理学の国広（研究活動上は呉林）です。この度、長い間お世話になった順天堂を定年退職することとなり、ご挨拶を兼ねて男女共同参画推進室のニュースレターに寄稿させていただきます。いろいろネタもありますが、何を一番強調したいかと言ったら、「研究は面白い」という事かと思いますので、勝手な持論ですが書かせていただきます。

謎解きは基本的に面白いもので、「謎」「疑問」はいろいろなところに転がっていると私は思います。医学系であれば、患者さんの症状にも、統計の数値の中にも、ちょっとした実験の中にも見つかります。自分で見つけた疑問を確認する、とか、理由を知る、のはわくわくする事です。謎・疑問に出会い、それが他の人も答えられないなら、それについて研究を始めましょう。今すぐ実施出来なかったら、出来る時まで温めておくのも有りです。自分の所属するラボだけで出来なかったら、関係ありそうな研究者に相談してみるのも良いと思います。今は社会人大学院生や研究生による研究もいつでもしやすくなっています。小さな発見でも、事実が明白であればよいです。ただ、仮説にとらわれ過ぎないよう、大局の中の立ち位置を客観的に把握することが大事かと思います。

今は2020年3月、新型コロナウイルスで世界中が大変な時です。特効薬は作れるのか？ハイリスクとそうでない人の理由は？等々。１年後に提起された疑問はいくつ解けているのか？医学のみならず、薬学、生物学、経済学、等々、様々な分野に新たな謎が突き付けられ、研究者は応えるべく頑張っていかねばなりません。逆に過去の地味な研究が、今、役に立つことがあるかもしれません。一般論に置きかえると、自分の研究を興味と自信を持って進め記述しておく事は自分のやり甲斐であると共に、いつか何かの役に立つかもしれません。

最後になりますが、みなさまのご活躍とご健康を心よりお祈りしています。これまでお付き合いのあった方々には長い間お世話になり、本当にありがとうございました。

学校法人 順天堂　男女共同参画推進室・女性研究者支援室
〒113-8421　東京都文京区本郷2丁目1番1号　☎03-5802-1009　✉ sankaku@juntendo.ac.jp
□ 男女共同参画推進室HP　https://www.juntendo.ac.jp/kyodoss/
□ 女性研究者支援室HP　https://www.juntendo.ac.jp/jyosei/